

鉄鋼業は依然として基幹産業と言いたい。

国連機関は入る前と入った後ではそのイメージががらっと変わる。国連憲章にある理想は理想としてあるが、内は人間臭さのかたまり、ドロドロしているのが実情である。地域・国別バランス、コンセンサス議決、ペーパー偏重、階級的構造、予算の硬直性、人事ローテーションの壁、極端な縦割り組織、先進国と途上国間のあつれき、ポスト争い、細かい義務細則等、民間から来た人間には驚ろく事が多い。しかし北南協力から南南協力、民間重視の援助、婦人への産業能力付与、多数国間協力、インターン制度、民間活力の起用など新しい動きも出てきている。

第二次世界大戦を契機に出来た国連、いくつかの専門機関の誕生もひとつの曲がり角に来ている。依然として約四分の一を米国が払い続けなければならないこと、平和維持機能の他、何を優先すべきか、慢性的財政危機、未整理のままの東欧諸国の費用負担問題など、課題が山積している。

国連機関に働く者として、日本鉄鋼協会会員の皆様に、現場の声をお届けいたします。

バイクの楽しさ

大 竹 一 友

豊橋技術科学大学教授

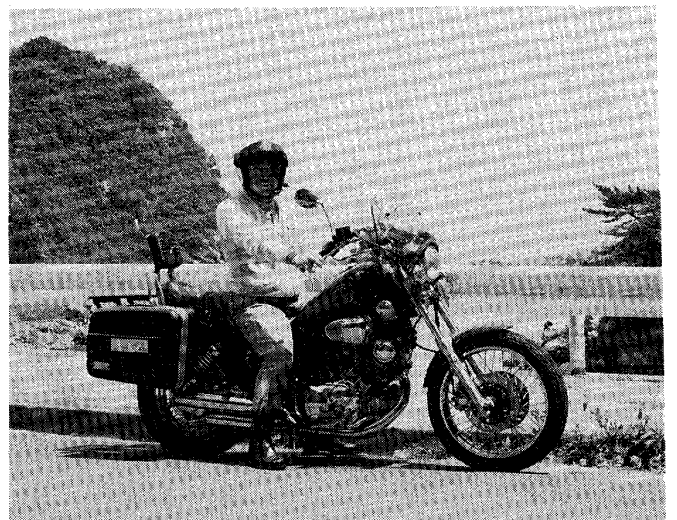
バイクの重さはスピードで変わる。それを楽しみながら蔵王で開催された本協会の鉄鋼工学セミナーや、仙台での化学工学協会（現在：化学工学会）の年会への参加、その後でリアス式海岸を見に盛岡まで足を伸ばしたり、豊橋のバイク仲間との遠乗りに出掛けて来た。紀伊半島や能登半島一周などのゲルメツーリング、鬼怒川と万座への温泉めぐり、雪の白馬岳を見ながら春の山菜と温泉を楽しむよくばりツーリング、獲れたての餅鯉を目当ての熊野への新緑ツーリングなど、当地のいろいろな職業の人達と、すっかり板についた東三河弁で楽しくやりとりしながら盛り沢山の企画を満喫できる充実感は、東京に住んでいた頃には予想だにできなかったことである。

バイクの楽しさは何と言っても、全視野の景色を独り占めにしながら、空気の濃淡と風の間をすり抜けて行くことにある。自然の営みと、風の法則を肌で感じながら、今の自分に最も無理が無い走りの条件を、全五感を研ぎ澄ましてとっさに判断し、バイクを思うように操って行く快感は、これ以外の陸上の乗り物に探すのは無理だろう。正に現代の乗馬、アイアンホースライディングである。山桜満開のワインディングロードに、ギヤをシ

フトダウンしてエンジンの出力でより強く地面をつかみ、車体をバンクさせてその重さを感じながらカーブに突っ込んで行く。コーナーをかわす頃からさらにスロットルを開くとエンジンは吹き上がり、加速と共に車体の重さが抜けてすっと起き上がる。すかさず次の逆カーブへといどんで行く。この感覚が楽しくて、日曜日など街の友人から電話がかかってくると、中津川や木曽福島あたりまで奥三河の山を抜けて昼のそば食いにでかける。車では出来ないぜい沢な自由さである。途中で山合の小さな菓子屋で香りの良い新茶をすすりながら、創業以来300年間変わることのない作り方を堅持してきたという昔風のカステイラに舌鼓を打つのも正に忙中暇ありの嬉しい一時である。そばを食べた後で、時として急に温泉につかろうかなどという提案が出て、その近くの昼神までスロットル全開で飛ばしたり、下呂温泉に左折したりすることもしばしばである。

バイクツーリングの最高の季節は新緑と、紅葉の頃だ。昇りの山道一面に咲き誇る桜や、紅葉のトンネルの中を走る喜びは筆舌に尽くせぬものがある。夏よりは冬の方がまだ救われる。着込めば何とか寒さには勝てるが、万一のことを考えて夏でも長袖のブルゾンを着るため、赤信号で止められる時の路面からの照り映えと空冷エンジンの熱気で、背中に汗が流れる。目的地に着いたとき真っ先にやる冷えたビールのファーストショットを思って青信号の後の風の爽快さに期待を寄せる。

バイクでは走っている間、仲間との話しが出来ない。その代わりに、相手の気持ちを思いながらそれぞれに自分を律していくところに友情を感じる。昼飯時など互いの思い入れの違いに花を咲かすのも、バイクツーリングならではの楽しさである。とはいえ15人以上の大パーティーで行く時など、2～3人が曲がり場所を間違えてどこかへ消えてしまうこともある。そのため少なくとも前後の連絡用にと携帯用のアマチュア無線機を積み、出来るだけ遠くへ電波を飛ばせるようにアンテナも付け



談話室/事務局からのお知らせ

た。アマチュア無線の免許を取り、JP2DCG のコールサインももらった。

バイクの敵は雨である。先述の仙台での年会の帰路、箱根路にかかる頃からうっすらみぞれになって来た。雪になったら大変だ。足柄 SA でガソリンを入れてもらう時間がやけに長く感じた。さいわい交通量が多く、路面に雪はなかったが、ヘルメットのフェースカバーがみぞれで低温になり、内部に自分の息が結露して凍ってしまう。仕方がないので 45 度ぐらいに持ち上げて何とかごまかしたが、今度は排気ガスの NO_x がしぶきに溶けて硝酸化するのか、目が渋いような痛さに見舞われ往生した。沼津まで降りたらみぞれはやんでまずはほっと一息ついた。翌日のニュースで東京地方は季節外れの大雪で、陸上交通は完全麻痺状態であった。帰宅して飲んだ

熱燭は言いようの無いうまさだったが、まぶたは腫れて結膜炎になってしまった。ディーゼルエンジン排気ガスの浄化技術の緊急性を痛切に感じ、以来この方面の研究にも力を注いでいる。

わたしは今 55 歳である。この職業を退いたらまずバイクで日本一周をやり、引き続き世界の国々を走る計画である。そのときバイクをヨットに積んで自分で運び、合わせて海路でも世界一周をしたい。そのために昨年 1 級小型船舶操縦士の免許も取った。バイクもヨットも本来自然の中に住んでいる人間が、いかに巧みに自然に順応して目的を達成させるかを試すすばらしい乗り物である。わたしはそれらに魅せられ、夢の止むところを知らない。

研究問題懇談会開催案内

大学と企業の若手研究者・技術者を対象とし、下記話題について自由に討論する標記懇談会を次の要領で開催いたします。

この会は誰でも自由に参加できますので、お誘い合わせの上、奮ってご参加下さい。

1. 主催 日本鉄鋼協会 研究委員会

2. 製錬グループ (第 28 回)

- (1) 日時 平成 4 年 10 月 5 日 (月) 18:00~20:00
- (2) 会場 富山県民会館 8 階キャッスル (JR 富山駅から歩いて約 10 分)
〒930 富山市新総曲 4-18 TEL 0764-32-3111
- (3) 話題 「私の研究手法」
- (4) 話題提供者 千葉工業大学金属工学科 教授 大野篤美
- (5) グループ責任者 京都大学工学部冶金学科 助教授 岩瀬正則
東北大学工学部金属工学科 助教授 日野光元
- (6) 会費 6,000 円 (消費税込み、当日会場にてお支払い下さい。)
- (7) 宿泊 各自ご手配下さい。

3. 材料グループ (第 26 回)

- (1) 日時 平成 4 年 10 月 5 日 (月) 18:00~20:00
- (2) 会場 富山県民会館 8 階キャッスル (JR 富山駅から歩いて約 10 分)
〒930 富山市新総曲 4-18 TEL 0764-32-3111
- (3) 話題 「高強度鋼線に生きる高周波熱処理技術」
- (4) 話題提供者 高周波熱錬(株) 技術本部技術部 次長 川寄一博
- (5) グループ責任者 九州大学工学部材料工学科 助教授 高木節雄
- (6) 会費 6,000 円 (消費税込み、当日会場にてお支払い下さい。)
- (7) 宿泊 各自ご手配下さい。

4. 参加申込 平成 4 年 9 月 17 日 (木) までにハガキでお申し込み下さい。

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 (社)日本鉄鋼協会 技術室 名雪または神谷
TEL 03-3279-6021 FAX 03-3245-1355